

## 中筋川総合開発工事事務所における技術力の向上の取り組みについて

中筋川総合開発工事事務所

副所長 林 良範

## 1. はじめに

平成10年度に完成した中筋川ダム以来のダム本体工事の着工を目指す、中筋川総合開発工事事務所において実施している、技術力の向上の取り組みの概要について紹介します。

## 2. 技術力の向上の取り組みの概要（平成20年度～）

開催日	取り組み内容	テーマ等	備考
H20年度	施工現場研修		4回実施
H20. 8. 27	第1回横瀬川ダム技術検討委員会		四国管内からも出席
H20. 10. 15	第2回横瀬川ダム環境委員会		四国管内からも出席
H20. 10. 22	H20年度第1回所内勉強会	事業認定	
H20. 11. 5～6	ダム本体工事現場先例地調査	大山ダム（九州、水機構）	
H21. 2. 16	第13回四国河川技術伝承会	ダム建設にあたっての留意点等	
H21. 2. 19	外部講師による所内研修会	公共事業と地域経済	
H21. 5. 22	H21年度第1回ダム建設技術勉強会	ダム発注方式	四国管内からも出席
H21. 8. 3	H21年度第2回ダム建設技術勉強会	コンクリート、フィルダムの施工・施工計画 総合評価落札方式の実務	四国管内からも出席
H21. 8. 27	H21年度第1回所内勉強会	河川整備基本方針と河川整備計画（渡川水系中筋川をケーススタディーとして）	
H21. 11. 29～30	ダム本体工事現場先例地調査	川辺川ダム（九州）	
H20. 12. 9	H21年度第2回所内勉強会	ダム建設と中筋川総合開発事業について	
H21. 12. 17	外部講師による勉強会	地域興し	宿毛JC、宿毛市役所等メンバーを対象
H21. 12. 18	外部講師による所内研修会	事業評価・地域活性化・地方分権	

## 3. 主な個別の取り組みの概要

## 1) 第13回四国河川技術伝承会（H21. 2. 16）

この会は、横瀬川ダム本体の建設に向け、「ダム建設にあたっての留意点等に関してのご指導・ご助言を頂くこと」を目的に、国土交通省を退職された4名の先輩諸兄に技術の伝承をお願いしました。伝承者の方々は、野村ダム（S56年度完成）、大渡ダム（S62年度完成）、中筋川ダム（H10年度完成）等のダム本体建設に携わっていた方々です。

伝承者 岡田 周三 氏、上岡 政夫 氏、中條 徳翁 氏、藤岡 康男 氏

会では、まず伝承者の方々に経験談や、参加者からあらかじめ提出してもらっていた質問に対しての回答も含めてお話ししていただきました。その後、現在直面している設計や積算等に関する課題等について、参加者より伝承者の方々へ質問させていただき、それを踏まえての意見交換を実施しました。

今回の伝承会により、横瀬川ダム本体の建設に向けての第一歩が踏み出せた、という思いが湧いてきました。

## 2) H21年度第1回ダム建設技術勉強会 (H21. 5.22)

水資源機構の方を講師に招き、「ダム建設技術勉強会」を開催しました。(参加者、他事務所含む21名)

講義内容は、「ダム発注方式」と題して、ダム本体工事を想定した総合評価方式について、過去に入札手続きの行われた他ダムの事例を基に、実務の流れ・留意点などを説明して頂きました。実際に実務を経験している担当者からのお話ということもあり、苦労した点や現制度の問題点など実際に役立つ知識を学ぶことができました。

当事務所では今年度仮排水トンネル発注、更に今後の本体着工に向け、ダム建設に一直線です！そんな時期だけに総合評価方式における技術点評価手法など実務面における質疑応答が多数され内容の濃い勉強会となりました。また、若手からは入札方式の一連の流れがよく分かり勉強になったとの感想も多く聞かれました。



写真一 第1回ダム建設技術勉強会

## 3) H21年度第2回ダム建設技術勉強会 (H21.8. 3)

ダム技術の向上を目指した「ダム技術勉強会」を、5月22日の第1回目の開催に続き、サンポートホール高松において開催し、四国地整河川・ダム関係職員を中心に28名が参加しました。

講師には水資源機構総合技術センターの方を招き「コンクリート・フィルダムの施工・施工計画」と「総合評価落札方式の実務」について講義をして頂きました。

この中で「コンクリート・フィルダム施工・施工計画」では、教科書には載っていない経験に基づく話もあり、ダム建設特有の施工計画やコスト縮減のポイント、施工管理の方法等を分かりやすく説明して頂きました。

また、「総合評価落札方式の実務」では、高度技術提案型で発注した大山ダムの実務を中心に説明頂きました。業者からの技術提案書に対する対応の仕方や技術提案を審査・評価するためには発注者にも高度な技術力を必要とし、発注者・受注者ともに多くの時間と労力、費用を費やしたことなど苦労話もありました。また、その経験を活かし発注者・受注者双方の負担軽減の課題に対する対応策についても教えて頂きました。

今回の勉強会では、実際に現場を経験された技術者からの話や教科書には載っていないダム施工に関する話など、普段は耳にすることの出来ない話を聞くことができました。

## 4) 『地域興し』勉強会 (H21.12.17)

元香川大学経済学部長で現在北九州市立大学大学院教授の井原健雄先生をお迎えし、宿毛JCや

宿毛市役所などのメンバーによる勉強会（テーマ『地域興し』）を開催しました。（参加者29名）

勉強会では、まず井原先生より「地域興しとは何か」ということについて講演して頂きました。この中で、地域活性化の要諦として、「持続的なイノベーションを通じて、その地域の差別化や差異化を最大限に促進し、地域ブランド力を高めることである。」とした上で、「破常識」や「逆転の発想」によるイノベーションが大切であるとも。また、これには、「包容力」も必要で、発展している街の統計を取ると、外国人が多いことや女性の社会進出率が高いなどの結果が出ることから分かるそうです。

その後、地元からの地域興しの活動や悩みを質問し、先生よりこれらに対するアドバイスを頂きました。

今回は、中筋川総合開発工事事務所が後援となり、『地域興し』勉強会を実施しました。今後も行政として可能な範囲で、こうした取り組みに対する応援を行っていきたいと考えています。



写真一 2 『地域興し』勉強会

#### 5) 外部講師による所内研修会(H21. 12. 18)

「事業評価・地域活性化・地方分権」をテーマに、先日の勉強会に引き続き井原健雄先生を講師に招き、所内研修会を開催しました。

会では、まず参加者より日頃、問題意識を持っている事について話し、それらについて先生の見解を織り交ぜつつ、上記のテーマに沿って様々なお話を頂きました。内容としては、行政のあり方として「行政は生産者と生活者の間に立っていなければいけない。」など様々な意見を頂きました。

研修会のテーマの事業評価に関しては、「B/Cだけで事業の可否を判断すべきではない。」などといった意見も頂きました。



写真一 3 外部講師による所内研修会

地域活性化については、先日開催した『地域興し』勉強会の内容とともに、平成18年6月に報告した「四国地域活性化研究会」による報告書の内容として、四国を含めて我が国で進展しつつある「人口減少・少子高齢化」や「IT化・技術革新の進展」などの「変化」(Change)を「好機」(Chance)と受け止め、「挑戦」(Challenge)していく必要があるとの紹介もいただきました。

#### 4. おわりに

当事務所においては、今後とも「ダム技術」をメインとしつつ、技術以外の内容も含む勉強会を積極的に展開していく予定です。開催にあたっては、可能な限り、開催の案内をさせていただきますので、管内の方々の積極的な参加をお願い申し上げます。